



三鷹市議

東京都三鷹市 野村 羊子 さん

**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 1957年生まれの61歳、札幌で育ちました。

**Q** ごみ問題に関心を持つようになったのは何故ですか？

**A** きっかけは、日の出最終処分場問題です。

私は1988年に吉祥寺で小さな子どもの本屋を始めました。1993年には三鷹に移転し、自然な食品や雑貨も扱うようになりました。

その頃、田島征三さんの発信や地域で共同購入している知人たちなどから、日の出処分場問題を知り、立ち木トラストにも参加しました。

同時に、三鷹で新しいごみ焼却場建設の動きがあり、設置場所や焼却炉の方式など声を上げている方々と知り合いになりました。

**Q** ごみかん入会して下さったきっかけは？

**A** 2007年に三鷹市議会議員になり、もっときちんと勉強しなければと思い、ごみかんの市民ごみ大学セミナーに参加しました。具体的な行政の実践の話などはとても参考になりました。

三鷹市は、調布市と広域で新焼却場（現在のふじみ衛生組合）の建設の最中でした。その市民会議に関わっていた「三鷹のごみを考える会」の活動に参加し、有料化やごみ減量、生ごみ堆肥化の問題等々を考え続けてきました。

そうした活動をする中で、私は、ごみ大学やごみっと・SUNで学びながら、情報提供や、市政への提案をし続けることができました。

**Q** ごみ問題に関すること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

**A** 読書です。本屋を始めてしまうくらい本が好きで、他にほとんど趣味はありません。主に児童文学、ファンタジー、ミステリーを読んでいます。

他に、ママさんコーラスに入っていますが、下手の横好きで一向に上手くはなりません。

**Q** 特筆すべき近況があれば教えてください。

**A** 今年の6月、三鷹市議会で「全ての命を守るためプラスチック海洋ごみの発生抑制・削減を求める意見書」が可決されました。同じ会派の嶋崎議員の提案で、自由民主クラブが反対しましたが賛成多数となり、関係機関に送付されました。文案は三鷹市議会のホームページ（本会議の結果→意見書等）をご覧ください。

2016年秋開催の市民ごみ大学セミナーで「海洋プラスチックの問題」を学び、会派の中で話題にしていま

した。それもあって、最近のグリーンピースのキャンペーンを見て、嶋崎議員が意見書をあげようと草稿を書いて提案したのです。

実は昨年、グリーンピースのキャンペーンで「ミツバチを守るため農業規制法改正を求める意見書」を、私は提案しましたが、この時は反対多数で否決されていました。

意見書は、地方議会が国会や政府に対して、意見を言えるものです。数が積み上がれば「こういう声がある」と使ってもらえます。

私はほぼ毎回そのときに必要と思われることを意見書として提案しています。反対多数で否決されることも多いのですが、声を上げ続けることが大事だと思っています。

**Q** ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことなどをお聞かせください。

**A** 行政と市民、そして企業とともに学び議論できる、今のような場所を継続して欲しいと思います。

市民や行政が、半歩踏み出せば実現できそうな、単純だけど大事なことを、提案し続けていただければいいなと思います。



絵本の店「プーの森」は三鷹駅南口の中央通り商店街にあります。絵本のこと、児童文学やファンタジーのことをおしゃべりしたい、こんな面白いもの、素敵なものがあるんだよって伝えたいと思って始めた店です。今はほとんど店頭でおしゃべりする機会がありませんが、月に1度の絵本の読み聞かせや「児童文学を勝手に読む会」は欠かさずやっています。